

春日基礎

佐藤 祐孝氏

兄2人と弟の兄弟4人が
そろって先代の社長と現場
で出会い、誘われるままに

入社したのが29年前の19
87年。関東一円で、鉄道
の連続立体交差事業などの
基礎杭工事の機械オペレー



佐藤氏

ターとして数多くの現場経
験を踏んできた。春日基礎
(東京都豊島区)の職長、
佐藤祐孝氏(59)は、高い
技能と後進の指導実績が評
価されてこの春、50年近い
社の歴史で初めて国土交通

鉄道工事職長が叙勲の栄誉

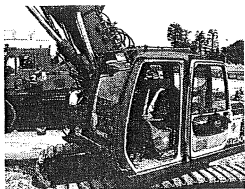
省関係の叙勲(瑞宝单光章)
の栄に浴した。

「叙勲といわれても最初
は実感が無かった」。それ
でも5月11日に東京都内
で行われた伝達式と皇居内
の天皇陛下への拝謁(え
つ)、夜には建設業界団体

主催の祝賀パーティーに妻
と共に出席。喜びがじわじ
わと湧いてきて、自分を育
ててくれた会社や今回の叙
勲を推薦してくれた東急建
設への感謝の気持ちで心の
中が満たされた。

施工は通常、職長の佐藤
氏以下4〜5人のチーム編
成で現場に向く。オペレ

現場で重機を動かす



し、時に「良い作業をした
ら、ちゃんとほめてやる」。
もちろん、機械に接触して
けがをすることのないよ
う、安全指導は厳しい。

鉄道の工事は、終電後の
深夜に現場に入ることが多
く、昼夜逆転の生活になる。
そつした生活の繰り返し
の中で培った仲間との結束は
固く、今も現場で頑張れる
糧となっている。

受章後、現場で「おめで
とつ」と声を掛けられるこ
とが多くなった。先代から
会社を受け継いだ今の社長
もことのほか喜んでくれて
いる。周囲の期待にこなし
ながらも技を磨き、与え
られた仕事を的確にこなし
ながら後進の指導に当たる
考えだ。

喜びがじわじわ、周囲の期待にこえたい